２０２４年１月２１日（第３主日）

第一礼拝次第

ﾒｯｾｰｼﾞ:渡真利彦文牧師
ﾌﾟﾚｲｽﾞﾘｰﾄﾞ:郭永東牧師

前　奏		
頌　栄	５４０	会　衆
主の祈り		会　衆
プレイズ	「大いなる方に」 「あなたをたたえ」	会　衆
聖書朗読	創世記 13：5～18 （旧約聖書 p16）	司　会
祈　祷		司　会
賛　美	５２７	会　衆
メッセージ	「相続人の使命」	牧　師
祈　祷		牧　師
賛　美	４４８	会　衆
献　金		
報　告		司　会
頌　栄	新生６７２b	会　衆
祝　祷		牧　師

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

第二礼拝次第

ﾒｯｾｰｼﾞ:郭永東牧師

ﾒｯｾｰｼﾞ：「それを告げられても」

聖書：ハバクク書 1:1～5(旧約聖書 p.1464)

ﾌﾟﾚｲｽ：「主イエスをほめよ」
「御霊の注ぎ」

賛　美：新生１０３　新生４３７

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

ファミリー礼拝

聖　書：マタイ５：44～48

ﾒｯｾｰｼﾞ：「敵を愛する」

＜巻頭言＞

「神と人を結ぶ木々や花々」

牧師　渡真利彦文

イスラエルは、ヨーロッパ、アフリカ、アジアが交わる中間地点(Land Between)である。行き交う人種や文化、通過する渡り鳥や植物の種類も、大陸間の真ん中ならではの多様性である。

九州を一回り小さくしたほどの広さの地ながら、砂漠、荒野、海岸、山地、高原と、それぞれの気候帯の木々草花が豊かであり、その地を彩る。乾燥した荒野のイメージだけが聖書の舞台ではない。聖書には数多くの植物が登場する。聖書は色付きの豊かな世界である。

20 世紀初頭まで 400 年続いたオスマントルコ支配によって、人里離れたところでは、土地は荒廃しきっていた。しかし、散らされていたユダヤ人がこの地を目指して帰り始めた時、開墾・干拓・植林が進められ、イスラエルは緑の国に大きく変容することになる。

もちろん、この土地に長く生活してきたアラブ人たちにも聖書時代と変わらない麦、オリーブ、ぶどう、イチジクなどを大事にする文化が根付いていた。イスラエルとアラブの対峙の現代史ばかりが言われるが、実はこの地を守り、復活させ、土地を生かすことにおいて大きな力を注いできた両民族なのだ。

聖書において植物は、人の罪や弱さを思わせ、また神の慈しみと命を思わせる、主の啓示の一つである。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」（ヨハネ 15:5）主イエスと私たちの一体感が木において例えられる。今も私たちの身近であり、どこででも主イエスを思うことが許されている。